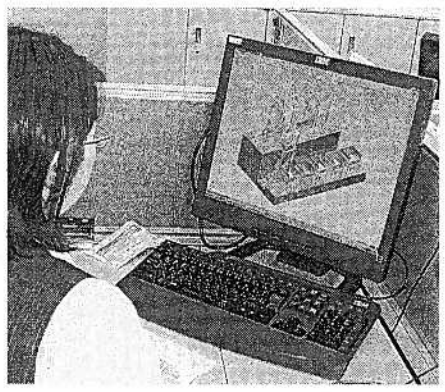
機械図面3次元化し提供

三明機工

中小向け　大きさ・形、確認容易に

工場の自動化を手掛ける三明機工（静岡市、久保田和雄社長）は、中小機械メーカー向けに、機械図面などを三次元データとして描き直すサービスを始める。紙などに描かれた図面を約一週間で三次元の図面データとして提供する。三次元の図面を描くのに必要な設備や人材確保が難しい中小企業に売り込む。



図面を3次元することで、設置後のイメージがわきやすくなる

三明機工はFA（ファクトリーオートメーション）機器の設計を数多く手掛けるため三次元図面を描ける人材が多く、これまでも中小機械メーカーなどから依頼を受けることがあったという。

図面を三次元化できれば大きさや形などを目で見て確認できるため、発注した工場側が機械を設置した後のイメージがわきやすい。このため大手企業の工場は、発注した機械メーカーに三次元データの図面提供を求めるケースが多いという。

三次元図面を描くには設計ソフトやシステムなどの設備投資も必要となるため、中小企業からの需要があると判断。四月から本格的にサービスを始めることにした。

三明機工では、一つ一つの部品を図面にあわせて三次元データに描き直し、パソコン上で組み立てる。組み立てる工程で、部品の大きさが機械寸法と合わない場合にはエラーがでるため、図面の設計ミスもわかる。機械の製造工程に入ってから、設計ミスがわかるなどのトラブルを防ぐ。

発注側の要望で機械の大きさを変えたい場合でも、三次元データであれば手軽に変更できる。機械に使われている部品の図面も機械全体の大きさの変更に応じて自動で描き直すことができるため、「部品強度などの検証は必要だが、図面を描き直す手間は省ける」（三明機工）としている。

部品が百個程度使われている機械の図面であれば、一週間程度で三次元化する。この場合、価格は三十万―四十万円程度となる見通しだ。

今後は設計した図面をデータベース化していく方針で、機械の改良や補修・修理、同じような部品を使った機械図面を描く場合に参考にする仕組みも整える。初年度で八千万円程度の受注を目指す。

静岡空港

就航へ本格始動

航空各社　相次ぎ支店開設

静岡空港の開港まで四日で二カ月。航空会社の間で就航へ向けた動きが本格化してきた。一日には日本航空と韓国・アシアナ航空が支店を開設した。大韓航空とアシアナの二社が就航する静岡―ソウル（仁川）便を巡っては、難航していたダイヤ調整が決着する見通しとなった。

日航は静岡営業所を支店に格上げし、これまで準備中だったアシアナは正式に開設した。中国東方航空や大韓航空も支店開設を準備中だ。

アシアナと大韓のダイヤの当初ダイヤは静岡発の場合、大韓が十二時二十分発、アシアナが十二時三十分発、ソウル発は大韓が九時二十分発、アシアナが九時三十分だった。

関係者によると、県の提案を受け入れて、大韓航空が各便について三十五分早める一方で、アシアナ航空が十五分遅らせる方向でまとまったという。

一日二便の静岡―ソウル便は地方空港としては異例の多さだ。アシアナ航空が昨年六月にダイヤを表明し、その後、昨年十二月になって大韓航空がほぼ同時刻のダイヤを表明した経緯がある。

新公益法人に移行

ヤマハ発スポーツ財団　寄付優遇税制受け

財団法人・ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS、静岡県磐田市、理事長・長谷川至ヤマハ発動機顧問）は一日、新たな公益法人制度に基づく公益財団法人に移行した。経営の透明性を高める公益法人改革の一環で国の認可を得た。同法人に企業が寄付すると損金計上しやすくなるなどの優遇措置があり、事業拡大につながりそうだ。

公益法人には、税制上の優遇を受けているにもかかわらず、経営が不透明で、特定官庁からの天下り先になっているとの批判があった。

昨年十二月にスタートした新制度は、公益性のある非営利法人の条件を明確にし、団体の申請を受けて国や都道府県が認可する。YMFSは公益財団法人として全国で最初に認められた三団体の一つだ。

同財団は二〇〇六年の設立。選手だけでなく、研究者や審判などスポーツを支える人に助成したり、定期的にアドバイスしたりしている。

〇八年度にスポーツチャレンジ賞の功労賞と奨励賞を創設。功労賞を北京五輪女子柔道金メダリスト、上野雅恵選手を育てた旭川南高校柔道部元監督の中野政美さんに贈った。

ヤマハ発動機スポーツ振興財団の第2期生の助成修了式（3月27日、東京・新宿）

静岡空港Q&A

ループの朴事を訪問

「航空会社は搭乗率が見込める時間帯に飛行機を飛ばしたいと考えます。搭乗率が高くなって、採算がとれる時間帯にあると考えられます」

――なぜダイヤの調整が必要

くはありません。搭乗前の待合室の混雑も予想されます。

「到着した飛行機を整備・点検し、機内の清掃や燃料補給をしてから、利用者を乗せてソウルに向けて飛ぶ」としている。

定例記者会見一転受け入れ

石川知事

静岡県の石川嘉延知事は二日、県政記者クラブに対し「定例記者会見を四月以降も予定通り開く」と伝えた。一日に今後は中止したい考えを明らかにし、クラブ側が抗議していた。知事は「クラブの申し入れを受け入れた」としている。

定例会見は記者クラブと県の共催で、石川知事は就任以降、原則として月二回開いた。次の開催は十三日の予定だった。

知事は三月二十五日、静岡空港の完全運用の障害となっている立ち木が伐採されるめどが立った段階で辞任する意向を表明している。一日に定例会見の中止を求めた理由は明らかにしていない。

県内経営者アンケートから

今後の経営戦略

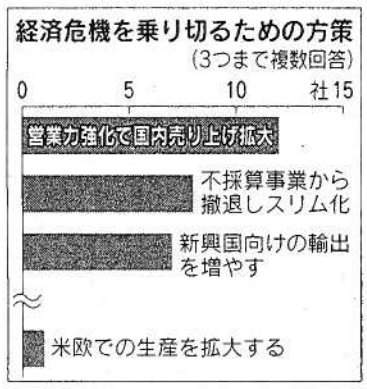
企業の欧米離れが加速

（下）

県内有力企業二十三社のトップに実施したアンケート調査によると、経済危機を乗り切るための経営戦略（三つまで複数回答）について、「営業力強化で国内売上拡大」をあげる企業が十二社で最も多かった。輸出不振の中、国内に経営資源を集中しようと考える企業が多いようだ。「不採算事業から撤退し、スリム化する」（八社）、「新興国での生産を拡大する」（七社）が続いた。

一方で「米欧向けの輸出を増やす」はゼロ。「米欧での生産を拡大する」も一社にとどまっており、欧米への投資集中のリスクを避けたいとの思惑も透けてみえる。販売や生産拠点を今後どの地域にシフトしていくか（複数回答）については、「特にない」との回答が十社で最多だった。

地元の雇用情勢については「人員の過剰感が強まった」との回答が八三%で最も多く、「悪化の兆しが出ている」（一三%）と合わせると九割以上の企業が雇用が過剰と感じているようだ。二月の県内有効求人倍率は〇・五六倍と低く、過剰感が続きそうだ。



炭素繊維強化樹脂

事業化研究会が発足

はままつ産業創造センター　地元21社で

浜松市の産業支援機関、はままつ産業創造センターは二日、炭素繊維強化樹脂（CFRP）の事業化研究会を発足させた。地元の部品メーカー二十一社が参加、静岡大学や東レなど素材メーカーの助言を受けながら加工技術の確立をめざす。

CFRPは軽量で強度に優れている。自動車など輸送機器への活用が期待されるが、価格が高く加工しにくい難点があった。研究会はCFRPの課題を集めて、大学の研究者らと解決策を探って事業化をめざす。

研究会会長の中村保・静大工学部教授は発足式で「浜松地域で世界一のCFPR加工技術を作り上げる」と抱負を述べた。

産業創造センターは来年三月までに超高張力鋼板、チタン、マグネシウムについても事業化研究会を設ける。

医療費申請書他人に発送30件

浜松市

浜松市は二日、障害者や精神疾患患者が対象の自立支援医療で、誤って他人の医療費支給認定申請書を発送したと発表した。表面のあて先と裏面の住所・氏名が異なり他人の申請書が届いた例が現時点で三十件ある。

申請書には保険証番号、受診を希望する医療機関などの情報が記載されている。申請書を受領した市民が一日、市に問い合わせたことでミスが発覚。市は書類作成時のパソコン操作と最終確認のミスが原因とみている。

申請書は三月三十一日に四百四十一通を発送。市は現在、発送者全員に対して電話で確認作業中だ。ミスが見つかった場合は職員が謝罪に訪れ、正規の申請書を手渡す。

青森リンゴ支援合同で販売企画

県内スーパー4社

遠鉄ストア（浜松市）、静鉄ストア（静岡市）、マックスバリュ東海、CFSコーポレーションのスーパーマーケット四社は四日、販売企画「けっぱれ！青森　みんなで食べて、青森りんごを応援しよう！」を開催する。霜やひょう害に影響を受けた青森県のリンゴ生産者を支援する狙いだ。

同企画では本来、加工用として利用される格外品のリンゴ「王林」約五十八トンを、県内百五十七店舗で販売する。価格は規格品の三分の一となる三個百円に設定した。

昨年の青森県産リンゴは、県内のリンゴ園の六三%が霜やひょうの被害を受け、傷やシミがついた格外品が県全体の生産量（六万八千四百トン）の七・四%に上った。

県内で展開する食品スーパー四社による合同企画は今回が初めて。

小型搬送ロボ

省電力で低価格に

ヤマハ発、新シリーズ

ヤマハ発動機は、工場レンフォーク―ジョン

―八百ミリまで選べる。初年度は国内外で年間千八百台の販売を見込む。

新製品は低価格で微振動がないパルスモーターを採用。同モーターの利点を残し、新しい制御方式によって高速動作時のトルク低下を抑え、停止時は消費電力を削減できるように改良した。動作音はサーボモーターと同等の静かさという。

多くの工場では省エネルギー化対策として、エアーでの搬送方式から電動機器へと置き換えが進んでいる。ヤマハ発は小型精密機器部品の組み立てや検査など、様々な工程向けに販売する。

Insights on the World
（世界の真実）

独、技術の次の一手を

ほっこり優しい奈良で悠久の歴史に触れるとっておきを体験
JR東海 奈良学文化講座
丸の内キャリア塾 in 奈良 特別講座開催！
うましうるわしし奈良 JR東海 × 丸の内キャリア塾 Marunouchi Career Academy

「古代に花開いた天平文化をたずねて
―― 東大寺から春日大社、興福寺へ」

JR東海「奈良学文化講座」は、今まで知らなかった奈良に出逢う、発見・再発見の場です。今回は特別に春日大社本殿に正式参拝して、巫女による神楽奉納をご覧いただき、悠久の信仰の姿を体験していただきます。東大寺戒壇院と法華堂では、天平彫刻の粋に触れ、中金堂を再興中の興

【開催日】平成21年5月16日(土)11:00～16:00(10:30受付開始)
【開催場所・主な内容】〈午前：室内講座〉奈良県文化会館（奈良市登大路町、近鉄奈良駅下車徒歩5分）にて児島建次郎先生によるお話演題「天平の悠久に遊ぶ」※昼食は各自でとっていただきます。
〈午後：室外講座〉奈良公園～東大寺（戒壇院・法華堂）～春日大社～興福寺を散策します。春日大社では、神職の解説とともに本殿前で正式参拝の後、巫女による神楽奉納を特別にご覧頂けます。
【定　員】60人＊女性限定
【講　師】児島建次郎氏（白鳳女子短期大学教授、元NHKチーフアナウンサー）
【参加費】2,000円（税込・拝観料含）
【申込方法】日経アドネットからお申込いただけます。（4月19日締め切り）

【講座内容に関する問い合わせ】奈良学文化講座事務局
TEL.03-3237-7966（9:30～17:30、土・日・祝日を除く）
※本講座は「現地集合・現地解散」が原則になります。交通、宿泊のご手配などは各自でお願いいたします。参加いただく方には、詳しい参加案内とともにJR東海ツアーズのお得な旅行パンフレットをお送りします。ご活用ください。※春日大社境内では、拝礼など同大社の決まりに従って行動していただくことになりますので、あらかじめご了承いただきますようお願いいたします。※定員を超えた場合抽選となります。※内容は止むを得ない都合により変更になる場合があります。